防　衛　省

防衛省 本省内部部局
＜国家一般職採用案内＞

Ministry of Defense Internal Bureau

防衛省

〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1

TEL:03-3268-3111（代表）

https://www.mod.go.jp/j/saiyou/ippan_senmon/

採用情報は
こちらへ

防衛省
MINISTRY OF DEFENSE

わが国の平和と独立を守り、
国の安全を保つという防衛省の使命。

この使命を全うするため、我々防衛省の職員は皆が一翼を担い、
日々様々な課題と向き合っています。

日本の平和を守り、世界の平和と安定に寄与したい、
きっかけや理由はそれぞれですが、熱い想いは皆同じです。

激動する国際社会において、新たなミッションが我々を待ち受けています。
同じ想いを持った仲間と共にこのミッションに挑戦しませんか。

大臣官房長
芹澤 清

Contents

02 大臣官房長メッセージ
04 組織図

〈組織紹介〉
07 大臣官房
08 防衛政策局
10 整備計画局
11 人事教育局
12 地方協力局
13 防衛装備庁／統合幕僚監部
14 情報本部／地方防衛局
15 地方総監部／地方協力本部

〈特集〉
16 他省庁への出向
18 国内外大学院への留学／民間企業への出向

20 これまでのキャリアを振り返って
24 CROSS TALK ～本省内部部局採用の魅力～
26 キャリアアップシステム
28 職員のある一日
29 ワークライフバランス
30 採用情報
31 採用担当者からのメッセージ

組織図

安全保障環境を踏まえ、先進的な防衛政策を立案し、それを部隊編成、基盤整備、人事、地元自治体からの協力確保、諸外国との連携などに反映させていく各部局。これらが有機的に結び付き、相互に連携を取ることで、防衛省は安全保障という大きな責任を果たしています。キャリアステップの過程で様々な部局に身を置き、組織全体をマネジメントできる視野と素養を身につけます。

- 内閣
  - 内閣総理大臣
  - 国家安全保障会議
- 防衛大臣
  - 防衛大臣政策参与（3人以内）
  - 防衛大臣補佐官
  - 防衛大臣政務官×2
  - 防衛事務次官
- 防衛副大臣
  - 防衛審議官
  - 防衛大臣秘書官
- 防衛人事審議会
- 防衛施設中央審議会
- 自衛隊員倫理審査会
- 防衛大学校
- 防衛医科大学校
- 防衛研究所
- 防衛会議
- 防衛監察本部
- 情報本部
- 地方防衛局
- 統合幕僚監部
  - 首席参事官・参事官
  - 陸上幕僚長
  - 陸上幕僚監部
  - 陸上自衛隊の部隊及び機関
  - 海上幕僚長
  - 海上幕僚監部
  - 海上自衛隊の部隊及び機関
  - 航空幕僚長
  - 航空幕僚監部
  - 航空自衛隊の部隊及び機関
  - 共同の部隊：自衛隊情報保全隊　自衛隊指揮通信システム隊
  - 共同の機関：自衛隊地方協力本部　自衛隊体育学校　自衛隊中央病院　自衛隊地区病院

内部部局

大臣官房

職員（事務官等）の人事、省内事務の総合調整、広報、会計などに関する業務を実施

- 秘書課：職員（自衛官等を除く）の人事
- 文書課：防衛省の所掌事務に関する総合調整、国会との連絡調整
- 企画評価課：防衛省の機構・定員、政策評価
- 広報課：防衛省・自衛隊に関する広報
- 会計課：防衛省の所掌に係る経費・収入の予算・会計
- 監査課：防衛省の所掌に係る経費・収入の決算・会計の監査
- 訟務管理官：防衛省の所掌事務に関する訴訟・損失補償・損害賠償、防衛監察本部の管理・運営

防衛政策局

わが国の防衛政策の立案、他国との防衛交流、情報の収集・分析などに関する業務を実施

- 防衛政策課：防衛・警備の基本・調整
- 戦略企画課：防衛及び警備に関する中長期的な見地からの政策の企画・立案、防衛研究所の管理・運営
- 日米防衛協力課：防衛分野における米国との協力の基本・調整
- 国際政策課：防衛交流の基本・調整のうち、インド太平洋地域の軍備管理・軍縮等に対する防衛分野における協力の企画・調整
- 運用政策課：自衛隊の行動の基本、防衛出動に関する計画の基本
- 調査課：防衛省の事務に必要な情報の収集整理、情報本部の管理・運営
- 訓練課：自衛隊の部隊訓練の基本に関する事務
- 参事官：防衛交流の基本・調整（参事官の所掌に属するものを除く）、安全保障環境の安定に資するもの

整備計画局

自衛隊部隊の編成・装備、情報通信、自衛隊等の施設の取得・管理、建設工事の実施などに関する業務を実施

- 防衛計画課：自衛隊の組織・編成・装備等の基本
- 情報通信課：防衛省の情報システムの整備・管理
- 施設計画課：自衛隊の施設の取得に関する制度及び基本的な政策の企画・立案
- 施設整備官：自衛隊施設の取得に係る実施計画の総括
- 提供施設計画官：駐留軍の使用に供する施設及び区域取得に係る実施計画の総括
- 施設技術管理官：建設工事に関する技術的事項

人事教育局

自衛官等の人事・福利厚生・給与制度・教育などに関する業務を実施

- 人事計画・補任課：職員（自衛官等）の人事
- 給与課：職員の給与制度・若年退職者給付金の基本
- 人材育成課：教育訓練（自衛隊の部隊訓練を除く）の基本、防衛大学校の管理・運営
- 厚生課：職員の福利厚生
- 服務管理官：職員の懲戒・服務・規律
- 衛生官：職員の保健衛生の基本、防衛医科大学校の管理・運営

地方協力局

全国の基地所在地方公共団体やその周辺住民の方々に対し、防衛省・自衛隊の政策や自衛隊の活動について理解・協力を得るための施策などに関する業務を実施

- 総務課：地方協力局の所掌事務に関する総合調整、総合的な政策の企画及び立案、特定防衛施設・特定防衛施設関連市町村の指定、地方防衛局の管理・運営
- 地域社会協力総括課：地域社会の理解・協力を確保するための制度・基本的な政策の企画・立案
- 東日本協力課：東日本の地域の地域社会の理解・協力を確保するための施策の企画・立案、連絡調整
- 西日本協力課：西日本の地域の地域社会の理解・協力を確保するための施策の企画・立案、連絡調整
- 沖縄協力課：沖縄県の区域の地域社会の理解・協力を確保するための施策の企画・立案、連絡調整
- 環境政策課：環境の保全に関する基本的な政策の企画・立案、事務の総括、自衛隊施設の取得・駐留軍施設の取得・提供・返還
- 在日米軍協力課：在日米軍に関する事項についての企画・立案、連絡調整
- 労務管理課：駐留軍等労働者の雇入れ・提供・労務管理等

防衛装備庁

主要装備品のライフサイクルを通じた一貫したプロジェクト管理、諸外国との防衛装備・技術協力、技術的優越の確保、防衛生産・技術基盤の維持・強化等の防衛装備品に係る政策の企画・立案を一元的に実施

- 長官官房：庁内の内部管理、人材育成、監察・監査、装備品等の開発の実施
- 装備政策部：装備政策の企画・立案、装備品等の取得に関する制度の総合調整、諸外国との防衛装備・技術協力に関する制度及び基本的な政策の企画・立案
- プロジェクト管理部：主要装備品の構想から廃棄に至るライフサイクルを通じた一貫した管理
- 技術戦略部：装備品等の研究開発・科学技術に関する制度及び基本的な政策の企画・立案
- 調達管理部：装備品等の調達に関する制度及び基本的な政策の企画・立案
- 調達事業部：装備品等の調達の実務

地方防衛局

防衛行政全般の地方拠点として、地元の理解及び協力の確保に関する業務や防衛施設の建設工事等を実施

北海道、帯広支局、東北、北関東、南関東、近畿中部、東海支局、中国四国、九州、熊本支局、沖縄の全１１拠点

情報本部

国際軍事情勢等、防衛省・自衛隊全般を通じて必要となる情報を作成

統合幕僚監部

首席参事官・参事官

実際の部隊運用に関する業務を、対外説明や関係省庁との連絡調整を含め一元的に実施

- 陸上幕僚長
- 陸上幕僚監部
- 陸上自衛隊の部隊及び機関
- 海上幕僚長
- 海上幕僚監部
- 海上自衛隊の部隊及び機関
- 航空幕僚長
- 航空幕僚監部
- 航空自衛隊の部隊及び機関
- 共同の部隊：自衛隊情報保全隊　自衛隊指揮通信システム隊
- 共同の機関：自衛隊地方協力本部　自衛隊体育学校　自衛隊中央病院　自衛隊地区病院

自衛官募集、自衛隊の広報、予備自衛官の管理、退職自衛官の再就職支援等を実施

本組織図は組織の特徴等を表現するため、防衛省の組織全てを精緻に表したものではありません。

組織紹介

大臣官房

法令審査――防衛省では、防衛大臣などの決裁を要する文書について、文書課法令審査の審査を受けることとされています。

文書の審査においては、文書を作成する部署のニーズや意図が正確にわかりやすく表現されているか、既存の他の規則と齟齬が無いか、文書の形式は整っているかなど、内容面・形式面の両方から確認します。その一つ一つに派手さはなく、地道な業務も多いですが、自衛隊の訓練・演習、装備品等の調達や研究開発、装備移転など防衛省・自衛隊の活動を支える、縁の下の力持ちとして重要な役割を担っています。

防衛省の法令等がどのようなプロセスを経て形作られるのかをリアルに肌で感じられる絶好の環境です。

読者へのメッセージ

わが国の平和や国民の暮らしを守る国防という仕事は、まさに防衛省でしかできない仕事です。決して簡単な仕事ではないですが、若手の時から責任ある業務に携わることができ、様々なことを学びながら成長することができます。

目まぐるしく変わる安全保障環境の中で、多種多様な業務を通じて「日本を守る」ために、私たちと一緒に防衛省で働きませんか？

文書審査の観点から国防を支える

大臣官房文書課法令審査審査第4係員
2021年入省

防衛の将来を見据えた予算編成

大臣官房会計課総括班係員
2022年入省

安全保障環境が一層厳しさを増す中、防衛省・自衛隊は限られた予算の中でより多くの役割を求められるようになっています。約25万人の組織を維持しつつ、新たな装備品を調達して有事に備えるには、防衛費の確保が重要です。

会計課は防衛省の予算を取りまとめる部署で、自衛隊をはじめとした各機関の予算編成などを行います。防衛予算は翌年以降の装備品調達など防衛力整備に直結するため、防衛省・自衛隊全体の活動を下支えする役割を担っています。

私は予算に係る部門に所属し、課の窓口として他省庁・他課との調整や国会・報道対応に携わっています。防衛省の予算を考えることは日本の安全保障のあり方に直結するため、目まぐるしく変化する予算編成の最前線で勉強と成長の日々を送っています。

読者へのメッセージ

防衛省では、あらゆる業務が「日本の平和の維持」という大きな目標に直結しています。熱い志を持った上司・同僚と共に、この重要課題に取り組んでみませんか？安全保障に関心のある方にとって、必ずやりがいを見つけられる職場です。一緒に働けることを楽しみにしております。

防衛政策局

防衛政策の司令塔として

防衛政策局防衛政策課
企画調整班係員
2021年入省

私が勤務している防衛政策課は、わが国の防衛政策全般の根幹である新たな国家安全保障戦略等の策定や、北朝鮮によるミサイル事案等の重大事案発生時の省内の取りまとめなど、「防衛政策の司令塔」としての役割を果たしています。

その中でも、私は総理や防衛大臣などが安全保障分野における政策全体の方針を議論する国家安全保障会議や、省内の最重要案件についての審議を行う関係幹部会議の実施に伴う各種調整など、防衛政策における意思決定の過程に携わっています。

テレビやニュースなどで大々的に報道される社会的関心度の高い案件を扱うことも多く、微力ながらも入省２年目の自分がそのような業務に携われることにやりがいを感じながら、日々、緊張感を持って業務に取り組んでいます。

読者へのメッセージ

当たり前のことではありますが、企業や役所から内定をもらうことはゴールではなく、その後には長い社会人生活が待ち受けています。

「わが国の平和と安全を守る」という崇高な使命を担う防衛省の仕事が、自分の一生を懸けるに値するものだと考え、私は防衛事務官の道に進みました。

我々以外の誰にも取って代わることができないこの職場で、志高い皆さんと共に働けることを楽しみにしています。

未来の防衛力を切り拓く

防衛政策局戦略企画課
総括班係員
2022年入省

皆さんはニュースなどで対衛星兵器や極超音速ミサイルといった言葉を聞いたことはありますか？

このような脅威に対処するために、戦略企画課は、防衛省の「知的基盤」として、宇宙、サイバー、ミサイル防衛などの最先端技術分野に関わる防衛政策を中長期的な見地から企画・立案しています。当課は民間企業出身の職員や出向中の職員も多く、官民様々なバックグラウンドを持った職員が専門知識を発揮して、防衛のフロンティアを拓いています。

私は課の窓口として、予算に関する資料の作成支援、国会答弁作成業務や防衛白書作成の課内取りまとめに従事しています。多様な分野を担当する課の総括として、関係各所との調整は一筋縄でいかないこともありますが、無事に実施・公表された時には大きな達成感を感じます。

読者へのメッセージ

入省1年目ですが、ニュースになる案件に携わることもあり、仕事のスケールの大きさを日々実感しています。その分緊張感もありますが、心強い上司や同僚のおかげで乗り越えることができています。日本の平和を守ることができると信じ、防衛省に入省しましたが、その初心を忘れずに業務に励んでいます。同じような揺るぎない思いを持った皆さんをお待ちしております。

諸外国との防衛協力・交流の推進

防衛政策局国際政策課
地域政策第1班調整主任
2018年入省

わが国を取り巻く安全保障環境が厳しさと複雑さを増す中、国際政策課は「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンを踏まえ、諸外国との防衛協力・交流を推進する役割を担っています。具体的な業務としては、防衛相会談などのハイレベル交流や実務者交流などの実施にあたって、会談内容や発信内容の検討、在京各国大使館や在外公館との調整などを行っています。2022年６月には、毎年シンガポールで開催されるシャングリラ・ダイアローグにおける防衛相会談のため、大臣出張にも同行しました。時には難しい調整もありますが、わが国の安全及び地域の平和と安定に貢献するため、諸外国との防衛協力・交流の推進に取り組めることに非常にやりがいを感じています。

読者へのメッセージ

本省内部部局採用では、若手職員の頃から防衛省の幅広い業務を経験することができます。これまで装備政策や防衛政策、地方調整などの業務に携わってきましたが、どの部署も日々学ぶことが多く、やりがいのある業務でした。様々な経験を得て、常に成長し続けることができる点が本採用の魅力の一つです。

自衛隊の運用を法制度面から支える

防衛政策局運用政策課
総括班係員
2022年入省

運用政策課は、自衛隊は何ができるのか、何をすべきか、どうすれば現場の部隊が円滑に活動できるか、といった運用に関する法制度面での企画・立案を行っています。

グレーゾーンの事態への対応、在外邦人等輸送、災害派遣等、自衛隊の行動は多岐にわたりますが、日本を取り巻く安全保障環境が厳しくなっている中で国民から自衛隊に求められる役割はますます拡大しています。2021年のアフガニスタンでの在外邦人等の輸送の経験を踏まえ、翌年４月に関連規定の法改正を行う等、運用政策は常に変化が求められます。

私は課の窓口として国会答弁等の作成のサポートや、他部署との調整業務等を行っています。本省内部部局で働くからこそ成長できることが多くあり、日本の平和と独立を守るというミッションを胸に日々やりがいを持って働いています。

読者へのメッセージ

防衛省は、安全保障について最前線で取り組むことができ、どんな業務も日本の安全保障につながるという点が魅力であると感じています。

安全保障に関する政策立案に携わりたい！当たり前の平和を守りたい！という熱意を持つ皆さんと共に働けることを楽しみにしています。

整備計画局

防衛力整備に携わる

整備計画局防衛計画課
総括班係員
2022年入省

防衛計画課は、わが国の防衛のためにどういった装備品を取得すべきか、どのような部隊を編成すべきかという、いわゆる防衛力整備の観点から企画の立案や各自衛隊との調整業務を行っている部署です。

私はこの防衛計画課総括班の窓口として調整業務に日々あたっています。具体的には、他省庁や他課との橋渡し役となり、担当している案件が円滑に進むようにマネジメントをする役割になります。各案件が綺麗に収まるかは自分の調整の出来に左右されるため、責任の重い役割ですが、首尾よく成し遂げた時には、さらに頑張ろうと前向きな気持ちになります。

読者へのメッセージ

普段何気なく享受している平和な日々が、実は当たり前のものではないと感じる出来事が近年次々と起こっています。この難しい時代において、安全保障に真正面から向き合う防衛省本省内部部局での勤務に深い意義を感じています。

職業選択の際には様々な迷いが生じるかもしれません。しかし、防衛省本省内部部局を選べば後悔はしないと思います。いつか皆さんと共に働けることを楽しみにしています。

新たな領域を担う

整備計画局情報通信課係員
2021年入省

近年、科学技術が発達し、各国が宇宙・サイバー・電磁波領域における能力を向上させており、同領域の重要性は一層増しています。私が所属する情報通信課では、防衛省の情報通信システムの整備・管理やサイバー政策、電磁波政策、AI分野、事案発生時の対応などを所掌しています。

その中で私は、防衛省の情報通信システムの整備・管理、電磁波政策を担当しております。電波は目に見えないものの、自衛隊の任務遂行に不可欠なインフラとなっているため、関係各課、各幕僚監部や民間企業などと協力し、将来の検討についても進めるなど、わが国の安全保障に大きく寄与しています。

読者へのメッセージ

防衛省は、防衛の最前線に立って、わが国を守ることができる唯一無二の組織だと思います。近年、その役割は拡大しており、恐らく皆さんが想像するよりも幅広い仕事が体験できるのではないかと思います。

特に私が働いている本省では、1年目には課の取りまとめ業務で知見を養い、2年目には政策の企画・立案など重要な意思決定に携わっており、非常にやりがいを感じることができる職場です。

人事教育局

より良い勤務環境を目指して

人事教育局
人事計画・補任課係員
2022年入省

人事計画・補任課では、多様で優秀な人材を確保するための制度面の拡充、ワークライフバランスの確保のための働き方改革の推進など、防衛力の中核たる人的基盤の強化に取り組んでいます。

人事教育局を取りまとめる「人事計画・補任課の窓口」として、他省庁や他局からの照会案件に係る連絡調整や、国会・会見の答弁資料の取りまとめ等、幅広い業務に携わっています。世に出る資料を扱うことも多く、常に先を考えながら、日々緊張感を持って業務に臨んでいます。

調整等を通じて、他部署と頻繁に連絡を取るため、同じ窓口である他課の若手職員とも交流が生まれ、良好な人間関係が築きやすい環境にあります。

読者へのメッセージ

防衛省本省内部部局で働く魅力の一つとして、多くの憧れの先輩と共に働けることが挙げられます。課の先輩は入省1年目の私に対し、業務への取り組み方だけでなく、その業務の意義まで教えてくれるため、仕事の理解が容易です。風通しが良く質問しやすい雰囲気なので、新しい業務にも安心して挑戦でき、より成長したいと思えます。

国の責務として、自衛官の第二の人生を支援

人事教育局人材育成課
援護企画室調整主任
2018年入省

皆さんは自衛隊の精強性を維持するために、多くの自衛官が50代半ば（若年定年制自衛官）または20代～30代半ば（任期制自衛官）で退職することをご存じでしょうか。

援護企画室では、国防のために身命を賭してきた自衛官の再就職を支援するための施策を企画・立案しています。退職予定の自衛官には、より良い処遇や自らの望む再就職先が見つかるよう、適性検査や資格取得のための職業訓練などの支援施策を用意しています。その中で私は統計担当として、施策の企画・立案に必要なデータの収集と分析業務を行っています。

時代の変化に合わせ、多様な働き方や労働市場の変化に対応できるよう先を見据えた支援施策の拡充が求められており、援護企画室の責務はますます高まっています。

読者へのメッセージ

Compass over maps（地図よりもコンパスが重要である）という言葉があります。新型コロナウイルスの拡大やロシアによるウクライナ侵略など、我々は歴史的な出来事が次々と起きる時代に生きています。

常識や価値観が大きく変わる時代において、誰かが描いた古い地図は頼りになりません。日本の未来を担う皆さんは、自分の意思や信念というコンパスに従って自身の納得する未来を選択してみてください。

地方協力局

わが国を取り巻く安全保障環境は厳しさと不確実性を増し、周辺諸国では質・量に優れた軍事力を有する国家の軍事活動が顕著となっており、また、気候変動の影響による大規模・長期化した災害が頻発しております。このように平和で平穏な日常が脅かされている中、自衛隊の訓練施設・緊急時の活動施設を整備することは、武力攻撃対処や災害派遣等につながり、わが国の防衛や災害対応の観点から、極めて重要かつ急務となっています。

その中で私は、鹿児島県にある馬毛島という離島の基地整備に携わり、関係部署や地元自治体との連絡調整や対外説明等を行っております。これらの業務が、平和の礎につながることを日々実感しながら、班員一丸となり、困難かつ重要な業務に取り組んでおります。

読者へのメッセージ

防衛省の業務は、国防という他ではできない唯一無二の業務です。内部部局では、1年目からスケールの大きい業務に携わることが可能であり、とてもやりがいを感じることができます。また、ワークライフバランスも充実しており、自らの生活を大切にしつつ業務に取り組める環境が整っております。

就職活動においてつらいと感じる時もあると思いますが、皆さんが苦難を楽しみ成功をつかむことを願っております。

馬毛島の基地整備を通じて

地方協力局地域社会協力総括課
移設整備班係員
2021年入省

沖縄の基地負担軽減のために

地方協力局沖縄協力課再編推進室
普天間飛行場代替施設建設事業班調整主任
2018年入省

沖縄には、今なお在日米軍施設・区域の多くが集中しており、抑止力の維持の観点を踏まえつつも沖縄の負担を早期に軽減していくよう努力をする必要があります。とりわけ、市街地に位置し住宅や学校で囲まれ、世界で最も危険と言われる普天間飛行場が固定化され、危険なまま置き去りにされることは、絶対に避けなければなりません。

私は、普天間飛行場代替施設建設事業を所掌するチームで、関係部署との調整や対外説明用の資料作成等を行っています。地元の皆様の理解を得る努力を続けながら、普天間飛行場の1日も早い全面返還を実現すべく、業務に取り組む日々です。困難なこともありますが、自分が携わった業務が沖縄の基地負担軽減につながっていることを実感でき、やりがいを感じています。

読者へのメッセージ

政策立案、各種事態への対応等、安全保障に係る様々な場面に入省してすぐ携わることができるのが、国家一般職本省内部部局採用の魅力だと思います。安全保障に少しでも興味があれば、防衛省本省を検討してみてください。誇りと意義を感じる仕事に出会えるはずです。

このパンフレットを手にした皆さんと一緒に業務ができる日を楽しみにしています。

防衛装備庁

装備品、特に「航空機」の構想から廃棄までのプロジェクト管理を担う部署で、将来のわが国の安全保障をも左右し得る重要な装備品である「次期戦闘機」開発のための予算関連業務に従事しています。「次期戦闘機」は事業規模や予算額が大きく、十分な対外説明を果たすことが重要である中、開発プログラムの進捗に係る公表資料を作成する等、やりがいと責任のある職務に臨んでいます。

また、「次期戦闘機」を開発するため、省内の関係部署、国内企業、さらには国際協力も視野に外国政府等とも協議を継続しており、協議準備の調整も私の仕事です。研究職技官や自衛官といった異なるバックグラウンドを持った上司・同僚と共に、まだ見ぬ装備品の完成を夢見て日々の業務にあたっています。

読者へのメッセージ

入省後、省内の総合調整、BMD政策、飛行場周辺の防音対策など多岐にわたる業務を行いました。調整が困難な業務や地道な仕事もありますが、それを乗り越えて事業を進められた時には達成感があります。

防衛省職員として、国防という観点から世の中に貢献していきたい。そのような意欲を持った皆さんと共に働けることを楽しみにしています。

将来にわたる航空優勢の確保に向けて

防衛装備庁プロジェクト管理部
事業監理官（航空機担当）付
調整主任
2018年入省

統合幕僚監部

UC（自衛官・文官）一体で災害に挑む

統合幕僚監部参事官付
災害派遣・国民保護班調整主任
2018年入省

地震や豪雨、火山噴火といった自然災害、火災、海難、新型コロナウイルス…。我々が立ち向かう災害は、一昔前からは予想もし得ないほどに激甚化・多様化しています。

陸・海・空自衛隊の一体的な運用の実現を担う統合幕僚監部において、参事官付は、文官として備えている政策的知見を活かして災害派遣などの部隊運用に参画すると共に、円滑な部隊運用のために必要な関係省庁との調整や国会をはじめとした防衛省外に対しての説明などを担っています。簡単に言えば、省の内と外をつなぐ懸け橋の機能を果たしている部署です。

部隊運用のプロフェッショナルである自衛官と共に災害に立ち向かい、自らが行った調整や説明が、かけがえのない人命を救うことにつながる、やりがいに満ちた仕事です。

読者へのメッセージ

当たり前の日常を守る。そのためには多くの困難がありますが、だからこそ取り組む価値のある仕事だと確信しています。人生の多くの時間を捧げることとなる「仕事」の選択肢の一つとして防衛省を考えてみませんか？

自衛官から見た事務官

統合幕僚監部参事官付は、自衛官と事務官が日頃から協力し合い勤務している職場です。自衛官から見て、事務官は「型」にとらわれない柔軟な方法で物事を進めていくように感じます。日常業務や会議の場で、上司部下の垣根を越えて、自由に、時にアツく意見を交えながら問題解決に向けて取り組む姿はとても勉強になります。お互いの持つ知識と経験を結集し昇華させ、共に日本のために働きましょう！

情報本部

私は現在、省内の機関間交流として情報本部で働いています。

情報本部は、わが国の情報機能の重要性と冷戦後の国際情勢の変化を踏まえ、1997年に創設されたわが国最大の情報機関で、国際・軍事情勢等、わが国の安全保障に関わる動向分析を行っています。

その中で私は、画像・地理部で衛星画像の分析を担当しています。装備品や国際情勢の知識を駆使して画像に写っている事象を読み解くという、非常に知的好奇心を刺激される仕事です。分析結果は内閣総理大臣や防衛大臣、国家安全保障局等の関係省庁に共有されたり、自衛隊の部隊の運用に役立てられたりすることもあり、わが国の安全保障に直接貢献できるという緊張感とやりがいを感じています。

読者へのメッセージ

防衛省には様々な業務があり、ここでしか知り得ない情報、ここでしか経験できない業務もたくさんあります。内部部局からは関係省庁や防衛省内の各機関、民間企業等へ出向することもあり、さらに多様な経験ができるチャンスがあります。

国際関係、装備品の開発、インテリジェンスなど、あなたの興味に刺さる仕事が必ずあります。ぜひ一緒に防衛省で働きませんか。

インテリジェンスの専門家として

情報本部画像・地理部
2015年入省

地方総監部

海上自衛隊総監部での勤務は初めての経験の連続です。総監部全体での会議に出席するのはもちろんのこと、担当業務については自身で総監まで報告を行い、自衛官と共に防災訓練等の様々な訓練に臨むこともあります。自衛隊ならではの作法等にも触れ、日々新鮮さを感じながら業務を行っています。

担当区域内で緊急事態が発生した場合は、情報収集や対応方針の検討・作成、上司への報告、部隊との連絡調整といった一連の対応にあたります。対応には迅速性、正確性が求められ、まだまだ勉強が必要だと痛感しますが、報道で目にしていた出来事が自身の業務として目の前にあることは、国防の一端を担っていると感じると共に、責任の重さを感じる瞬間でもあります。

防衛省は現場があっての組織です。現場で隊員がどのように考え行動し、それが防衛省の任務遂行にどのように寄与しているのか、地方勤務で学んでいます。

読者へのメッセージ

国防と一言で言っても非常に多くの要素から成るものであり、防衛省の業務も部隊運用や、装備品配備、隊員募集や地元調整など非常に多岐にわたります。しかし、どの業務も「国を守る」という目的を持っている点は一致しています。同じ目的を持ち、日々やりがいを感じながら働けることは防衛省ならではの魅力だと思います。

自衛隊運用の現場の中で

海上自衛隊舞鶴地方総監部
防衛部第3幕僚室係員
2020年入省

地方防衛局

防衛政策と地域社会とを結ぶ

九州防衛局企画部地方調整課
基地対策室係員
2019年入省

地方防衛局では、防衛省・自衛隊及び在日米軍の安定的な運用を支えるため、様々な業務を行っています。わが国の平和を守るため、日々の訓練、部隊改編、装備品の配備等の施策を着実に実施していくことは重要ですが、演習場、基地などの防衛施設の周辺には地元の方々の暮らしがあり、その方々のご理解・ご協力を得ることが不可欠です。その際に地元自治体や地域社会と緊密な調整を行い、防衛省・自衛隊の施策にご理解・ご協力を得ることが基地対策室の主なミッションです。私も日々オフィスを飛び出して、九州各地の自治体と調整を行っています。

時には本省とも議論を戦わせつつ、地元の事情を踏まえたものに施策を昇華させられた時、九州での自衛隊及び在日米軍の運用を陰ながら支えていることを実感します。

読者へのメッセージ

新型コロナ対策、戦闘機の取得等の様々な業務に携わる中で、「国防」の幅広さを実感してきました。多様な業務に対応するための自らの研鑽はもちろんですが、「国防」は一人では成し得ません。事務官に限らず、自衛官や研究者、医師等の多様な職員とも一致団結して政策を前に進めることは、防衛省で働く醍醐味の一つです。「チーム防衛省」の一員として、志ある皆さんと働ける日を楽しみにしています。

地方協力本部

人材確保の最前線で

自衛隊大阪地方協力本部
募集課総括班総括係
2019年入省

皆さんは、「防衛力の強化」と聞いて何を想像しますか？

例えば、「最新鋭の戦闘機や護衛艦を導入する」、あるいは「ミサイル防衛のための各種装備を充実させる」と想像したかもしれません。

もちろん、どちらも間違いではありませんが、いくら最新の装備を準備したとしても、これらを扱う人材が不足していれば宝の持ち腐れになってしまいます。

そのため、わが国の防衛力を強化する上で、人材の確保は極めて重要であり、この重大なミッションを任されているのが、私の所属する自衛隊地方協力本部です。

人口の減少、少子高齢化の急速な進展により、現在の採用環境は厳しい状況にありますが、優秀な人材を確保するため、他部隊と連携した募集イベントやSNSを活用した広報活動等の募集施策を企画し、自衛隊の魅力発信に日々奮闘しています。

読者へのメッセージ

わが国がこれから何十年先も安心して暮らせる国であり続けるため、我々に与えられたミッションは極めて重要です。我々は、この重要なミッションへ共に立ち向かってくれる熱い志を持った同志を探しています。

我こそは！という方は、ぜひ防衛省という「国防の門」を叩いてください。

安全保障の羅針盤策定へ

内閣官房国家安全保障局
戦略企画班主査
2015年入省

わが国の安全保障に関する外交・防衛政策を中心とした基本方針である「国家安全保障戦略」の担当部署に出向しています。特に2022年は約10年ぶりの戦略見直しの年にあたり、防衛力の抜本的強化に向けた新たな戦略の検討作業に関わってきました。

国家安全保障局は、防衛省だけでなく外交・経済省庁や情報関係機関からの出向者も多く、国民の命と暮らしを守るべく、政府全体で立体的に安全保障を考える体制が構築されています。様々な省庁からの出向者と多様な意見を交換できる環境であるため、幅広い知見を得られるだけでなく、自らの視野が大きく広がったと感じています。国家安全保障局に出向する前は、直接的・物理的な防衛力を重視した、防衛省的な論理のみで安全保障を理解しようとしていましたが、様々な方々と共に業務を行う中で、安全保障への多角的なアプローチを理解でき、そこから得られた経験は防衛省に戻ってからも役立つものだと確信しています。

防衛省以外の他省庁と悩んでいる方もいらっしゃるかと思いますが、防衛省職員であっても外交・経済等の幅広い分野に携わることができます。まずは安全保障の本丸、防衛省を選択肢の一つとしてみてはいかがでしょうか。

経済が安全保障の手段となる時代

内閣府経済安全保障担当大臣室秘書官付
2017年入省

グローバル化が進展し、各国が経済関係を深めれば、武力衝突の可能性は下がると言われてきました。その半面、経済効率性が重視され、国際分業化が推進された結果、サプライチェーンは複雑化し、重要な物資の他国への依存やそれに伴う供給途絶リスクなどが高まっています。昨今の半導体不足による自動車の減産はこの一例と言えます。

こうした課題を含む時代の変化に対応し、経済面からも国益を確保するため2021年に経済安全保障担当大臣が新設され、防衛省・経済産業省・文部科学省から秘書官及び秘書官付が官邸向かいの内閣府に集められました。私はその一員として大臣・秘書官のサポートや大臣スケジュールの管理・調整等を行っています。試行錯誤の日々ですが、大臣が普段何をお考えになり、どんな日程をこなすのか、また政治家でもある大臣の知見と事務方の政策方針をどのようにすり合わせていくのか、これらを常に目の当たりにする経験は、今後の行政官人生において大きな財産となると確信しています。

私が入省した時には、経済分野に関わるとは想像もしていませんでしたが、安全保障上の不安定要素の多様化に伴い、防衛省職員の活躍のフィールドは飛躍的に広がっています。将来皆さんと共に、最先端の課題に取り組めることを楽しみにしています。

サイバーセキュリティの世界へ

私が勤務する内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）基本戦略総括グループは、サイバーセキュリティ戦略本部の事務局として、わが国のサイバーセキュリティ戦略策定に関する企画・立案、センター内の業務マネジメントを所掌しています。私は勤務時間等の管理や業務の割り振りに関する調整業務などを担当しており、毎日が刺激と発見の連続です。わが国の政策、他国の動向、事案への対応など第一線で何が行われているかに日々触れることで新たな見識を深めています。さらに、NISCには他省庁出身の職員だけでなく、一般企業出身の職員も多く勤務しております。多様な方々と接して、自分にはない考え方や業務のやり方を見て学ぶこと、気付くことが多く、至らぬ点を成長させていただいております。

昨今、サイバーセキュリティは防衛省業務の中でもますます注目されている分野であり、私もNISCに出向してから同分野への関心が一層高まりました。わが国のサイバーセキュリティ政策の先端で業務に携わり、鮮度のある情報に触れ続けることができる毎日は非常に貴重な経験となっております。

内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター
基本戦略総括グループ
2015年入省

日印関係の進展を支える多角的な取り組み

私が所属する南西アジア課インド班は、日印連携の深化やインドを含む多国間協力推進業務を所掌しています。2022年9月の日印2＋2開催にあたっては、地域・国際情勢についての議論や安保・防衛協力強化に向けた取り組みの確認など、外務・防衛両側面からの調整に携わり、行政官としての視野が広がりました。外国との協力関係の維持・発展には外交的な努力の積み重ねが不可欠であることはもちろんですが、日本の高い技術力の結晶である防衛装備品の移転や、陸海空における共同訓練の継続的な実施も重要な役割を占めているのだと、外務省にいるからこそ強く実感することもあります。

防衛省からの出向者として防衛政策や装備品等について質問されることもあり、これまで防衛計画課をはじめとした内部部局、沖縄防衛局、防衛装備庁勤務や留学で得た知識と経験に助けられています。反対に外務省の方に聞く外交の知識や在外公館勤務の経験談は、どれも防衛省にいたら知り得なかった興味深いものばかりです。ヒンディー語など各種言語のスペシャリスト、民間企業や地方自治体からの出向者の方々と一緒に外交政策の一端を担うことができるこの貴重な体験からも、多くを学びたいと思っています。

外務省アジア大洋州局
南部アジア部南西アジア課主査
2015年入省

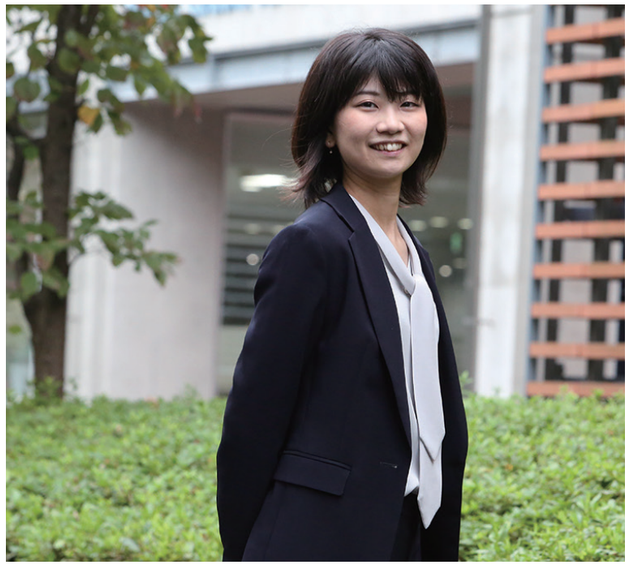
理論と実践、そして歴史から国際関係の本質を学ぶ

ロンドン大学
（London School of Economics and Political Science）
2016年入省

2022年9月から、英国ロンドンにあるLondon School of Economics and Political Science（LSE）で国際関係論を専攻しています。その名の通り、社会科学に特化した大学であり、国際関係論の分野でも世界的に著名な教授が在籍しています。私がLSEで学んでいる第一は、国家の行動原理や国際的な諸課題についての歴史に基づいた理論と実践です。防衛省で勤務していると、国際関係は国益と力に基づく対立の場であるというリアリズム的視点に傾いてしまいますが、自国の政策立案のみならず、他国や国際機関等の意思決定を理解するためには幅広い理論的視座が必要です。したがって、伝統的な理論から近年の批判的理論まで、多様な国際関係理論とケーススタディを通じた理論の適用を学ぶべく日々奮闘しています。

また、国際関係の全般的な理論に加えて、外交や欧州の防衛・安全保障政策についても学んでいます。ロシアによるウクライナ侵略という現代の国際秩序を大きく揺るがす地殻変動が発生した2022年、戦時における外交の役割や欧州諸国の防衛政策を英国の地で学べることは非常に貴重な経験だと感じています。理論と歴史に裏打ちされた学問的知識を十分に吸収し、防衛省での今後の勤務に役立てていきたいと考えています。

六本木のキャンパスで学ぶ国際協力



政策研究大学院大学
（National Graduate Institute for Policy Studies, GRIPS）
2015年入省

現在、六本木にある政策研究大学院大学（以下GRIPS）の公共政策プログラム国際協力コースを履修しています。これまで国際的な業務に携わったことはなかったものの、日本の安全保障には諸外国との防衛協力が欠かせず、今後も深化していくと考え、本コースを選びました。

国際協力といっても、学問的な分野は多岐にわたります。例えば、軍による能力構築支援や装備移転等の防衛協力や、貧困削減・経済発展に寄与するための開発・経済協力等も国際協力に含まれます。これまでの国際情勢を踏まえると、お互いの分野の融合を図って、より効果的に国際協力を実施していくことが望ましいのですが、実際には課題もあります。そこで、私は諸外国の政策や事例等を分析し、課題をどのように克服して、政策を実現しているのか研究しています。この研究を通して得られた視点を今後の本省業務にも活かしていきたいと考えています。

また、GRIPSには、他業種の日本人学生だけでなく、諸外国（欧米、豪州、東南アジア、中東、アフリカ等）の政府機関等から派遣されている留学生も多くいます。日本にいながらも、諸外国の政府職員たちと共に、本コースで机を並べて学ぶ日々は、新しい発見の連続で大変刺激的です。

志望動機＋オーストラリア留学＝？

日本が活発に防衛協力を進めているオーストラリアという国は、どのように周辺地域をとらえているのだろうか。大半の防衛省職員がアメリカや英国を留学先として選択する中、私はオーストラリアを留学先として選択しました。

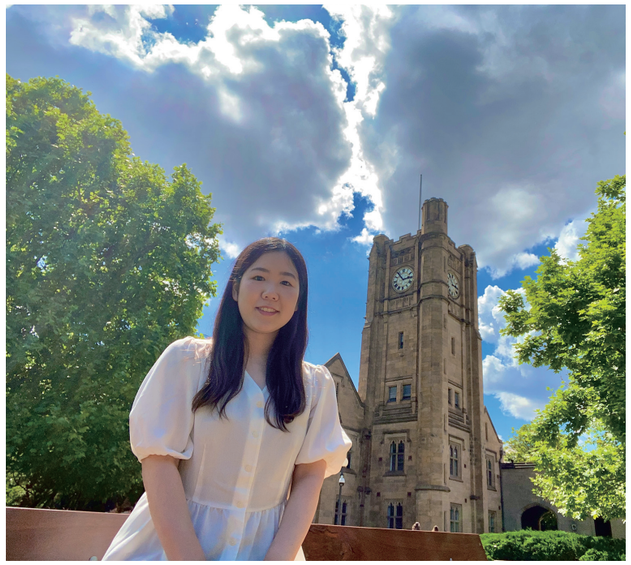
大学の授業では、アメリカ、中国、日本の３か国を中心に分析し、地域の平和と安定のためには、アジア太平洋地域の国々がそれぞれどのような役割を果たすべきであるのかという議論を行っています。オーストラリアの考え方、地域のとらえ方はさることながら、東南アジア等から来ている友人たちとの議論は新しい発見でいっぱいです。

「これは入省１年目で携わった業務だ…！」

自分が携わっていた内容が授業で取り上げられると、当時、右も左もわからず、がむしゃらに業務をこなしていた毎日を思い出します。入省時に心に抱いていた防衛省で働くことの意義ややりがいを、学問の窓を通して反芻できたような気がしました。

「日本と世界の平和のために働きたい」

留学を通じて、久しぶりに思い出した８年前の志望動機。帰国後、留学で得たものをどのように実務に活かしていくか、胸が小さく高鳴っています。



メルボルン大学
（The University of Melbourne）
2015年入省

民間企業で商品企画業務に携わって

2022年4月から出向しているキヤノン株式会社は、レンズ交換式デジタルカメラの世界シェアトップを誇る企業です。この企業の主軸とも言えるカメラ事業において、私は商品企画等の業務を担当しています。業務に取り組むにあたって、これまでの自社・他社商品の販売実績やカメラ市場のトレンドを調査したり、Web会議で新商品に関するプレゼンテーションを実施するなどして、魅力あるカメラの企画を提案できるよう励んでおります。

商品の企画には「こういった商品を発売すれば必ず売れる」といった完璧な正解は存在しません。ヒットするだろうと思われる商品を発売しても、ターゲットとしたユーザーがこちらの思い通りに購入してくれるとは限らないからです。少しでも成功率を上げるためには、自社・他社商品や市場などに関するデータの分析を深掘りし、ユーザーは何を求めているのかを粘り強く考え抜く力が必要となります。キヤノンと防衛省では業務内容が大きく異なりますが、業務にあたる中で互いの共通点や防衛省の業務に活かせる点も多く存在していると感じます。これら出向で培った経験を今後の役人人生でも活かせるように日々奮闘しております。

キヤノン株式会社 イメージコミュニケーション事業本部
ICB事業統括部門 ICB商品企画部 ICB商品企画第一課
2015年入省

これまでのキャリアを振り返って

人的側面から防衛省・自衛隊を支える

大臣官房秘書課部員
2001年入省

2001年	陸上自衛隊
2009年	大臣官房広報課
2012年	防衛政策局調査課
2014年	大臣官房秘書課
2016年	内閣府再就職等監視委員会
2018年	人事教育局人事計画・補任課
	再就職等監視室部員
2020年	防衛監察本部
	統括監察官付第2監察班長
2020年	防衛大臣政務官秘書官
2022年	大臣官房秘書課部員

トンガ北部の火山島の噴火に伴う
自衛隊の対応に関する関係幹部会議にて

現在の職務内容

大臣官房秘書課において、事務官等の職員の人事を担当しています。わが国の安全保障環境が厳しさを増し、防衛省が対応すべき行政課題が複雑化、高度化する状況の中、人口減少や少子化の進展、働き方の多様化等により、人事施策上取り組むべき多くの課題が顕在化してきています。これらに対応すべく、より幅広い層から多様で優秀な人材を安定的に確保する採用活動や、ワークライフバランス推進のための長時間労働是正や休暇取得促進の取り組み、職員のスキルアップにつながる研修の企画等、組織力強化につながる人事施策を打出し実行しています。職員人事というと、国防には直結しない仕事のように思われるかもしれませんが、防衛力を構成する中心的な要素として国防の一翼を担っています。

印象に残っているエピソード

防衛大臣政務官の秘書官を2年間務めました。国会や部会等での答弁、担当から様々な案件について説明を受ける際等、あらゆる面で政務官をサポートすることが秘書官の任務です。特に国会等は、政府見解を示す重要な場であるため、準備を万全にし、常に緊張感を持って臨みました。また、省内の会議にも同席し、国民の生の声を直接聞き、ニーズを把握している大臣をはじめとする政治家と省内高官との議論の行方を見守り、事務方では思いつかないような政治家ならではの視点からの指摘にハッとさせられることや、省の重要な意思決定の場面にも数多く立ち会うことができました。

日々勉強と緊張感の途切れない刺激的なこの2年間は、防衛省の業務全般について幅広く学び、安全保障の重要性を再認識する良い機会でした。政務官離任の折、政務官より感謝と労いの言葉をかけられ握手をした瞬間、肩の荷が下り何にも代え難い達成感でいっぱいでした。

読者へのメッセージ

「防衛省の任務は国防、しかし私は何をやるのか」

入省前は、防衛省で自分が働いている姿を具体的にイメージできませんでした。それでも国防という職務はスケールが大きく、かつ幅広い選択肢があるのではないかと思い、入省を決意しました。実際にこれまで携わった業務は多岐にわたり、様々な課題にチャレンジできることを実感しています。国防が任務という唯一無二の組織で、他では決してできない多種多様な経験や新たなことにチャレンジする気概のある方をお待ちしています。国家の舵取りを担う場には、皆さんが活躍できる場面が必ずあります。

次世代の国防を担う

大臣官房参事官付部員
2005年入省

2005年	海上自衛隊
2013年	大臣官房文書課
2015年	人事教育局服務管理官付
2017年	整備計画局防衛計画課
2019年	地方協力局地方協力企画課
2020年	大臣官房秘書課部員
2022年	大臣官房参事官付部員

海自イージス護衛艦にて

現在の職務内容

技術の進展により、ドローンやAIといった最先端の民生技術が軍事転用されるなど、戦い方が大きく変化しています。こうした環境に対応するため、防衛力を抜本的に強化する必要があります。

防衛省では、政策的に緊急性・重要性の高い事業について、早期に装備化するため、省内横断チームを編成し「事業構想から装備化」まで一貫して取り組んでおり、その中で私は無人装備など民生技術を活用した案件を担当しています。

ここではグランドデザインを描くだけでなく、早期に目に見える形（防衛力）にすることが求められているため、実現には、政策サイド・運用サイド・技術サイドの連携が欠かせません。課題も多く簡単な答えはありませんが、関係者と議論しながら、自分が携わる事業を近い将来の防衛力にする、まさに防衛省の仕事の醍醐味であると言えます。

印象に残っているエピソード

「自衛隊の視点を忘れるな」

私が装備品の導入や部隊編成といった防衛力整備を担当していた時に、上司からいただいた言葉です。当時は自衛隊のあるべき姿について省内で日々議論していました。当然ながら机上の空論に陥ってはいけません。つまり、政策サイドだけでなく、現場で活動する自衛隊の視点も踏まえたフィージビリティ（実現可能性）が求められます。上司の指導も踏まえ、機会をとらえて部隊を訪問し、指揮官や隊員の方と意見交換するよう心がけました。そこで得た気付きを、装備品や部隊の整備計画を作ったり、予算編成として具体化していく過程で、可能な限りフィードバックさせるよう努めました。困難な調整も少なくなかったのですが、後日「現場の声を汲み取ってくれてありがとう」と自衛官の方から感謝の言葉をもらったことは今でも忘れません。

読者へのメッセージ

本省内部部局の業務は、政策面から安全保障にアプローチすることです。

前配置の大臣官房秘書課では、採用・人事管理担当として、本職種の配属ポストや制度面の充実に取り組みました。防衛省には、常に大きく、新しい課題が待ち受けていますが、課題を解決していく上で、本職種で採用された職員の重要性はますます高まっています。

激変する安全保障環境に対応するためには、我々も常に変化し続けなければいけませんが、安全保障の中心で、政策担当者として、次世代の国防を担う、そんな刺激とやりがいがここ（本省内部部局）には溢れています。

これまでのキャリアを振り返って

沖縄統合計画の実現に向けて

地方協力局沖縄協力課
米軍再編推進室調整係長
2014年入省

2014年	防衛政策局防衛政策課
2015年	大臣官房広報課
2016年	近畿中部防衛局地方調整課
2018年	防衛装備庁装備政策部装備政策課
2020年	国外留学（エセックス大学）
2021年	地方協力局沖縄協力課

留学先のキャンパスにて

現在の職務内容

日本の安全保障にとって、日米同盟の抑止力は必要不可欠です。しかし沖縄の皆様には、今もなお大きな基地負担を担っていただいており、沖縄の基地負担軽減は政府の最重要課題の一つです。このため沖縄協力課では、「在日米軍の抑止力を維持しつつ沖縄の基地負担を軽減する」在日米軍の再編に取り組んでいます。

その中で私は、沖縄本島中南部に所在する米軍基地の約7割の土地を返還する「沖縄統合計画」を着実に進めるため、在日米軍司令部との調整等を行っています。「沖縄統合計画」は、2013年から続く大きなプロジェクトですので、一朝一夕で成果が出るものではありません。また米軍との調整は、考えの違いなどから時に困難も伴いますが、それゆえに、日々の積み重ねが、土地の返還などの形で基地負担軽減に結実すると、大きな達成感があります。

印象に残っているエピソード

防衛装備庁に出向していた頃、国連欧州本部（ジュネーブ）で行われた自律型致死兵器システム（LAWS）の政府専門家会議に参加しました。コンセンサスで報告書をまとめる必要があったのですが、調整が難航し、合意できたのは最終日の深夜3時過ぎでした。

自販機のお菓子で深夜の空腹をしのいだことも印象的ではありましたが（笑）、技術を持ち開発を進めたい先進国と、技術を持たない国や未知の兵器の危険性を訴える国の間に、大きな溝があることを痛烈に実感しました。一方で、科学技術が急速に進歩する中、各国固有の事情や利害を乗り越えてルールを作る国際社会の努力を直接目にすることもできました。この業務をきっかけに関心を持った国際人道法を留学先で専攻するなど、この会議への参加は今の自分を形作る大きな経験となりました。

読者へのメッセージ

平和安全法制や地元調整、装備政策や米軍再編など、これまで様々な業務に携わってきました。防衛省は職務の幅が広く、挑戦したい業務がまだまだありますが、どの職務も「わが国の平和と安定のため」という点が共通しています。行政官としての仕事は、毎日全てがキラキラと華々しいものではありません。しかし、我々の仕事の先にあるものは、常にわが国の安全保障です。どんな時もその信念を持って臨めることが、仕事をする上で大きな支えになっています。防衛省で皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

ボールをつなぐ

整備計画局防衛計画課業務計画第3班
業務計画第3係長
2015年入省

2015年	経理装備局航空機課
2016年	大臣官房会計課
2017年	沖縄防衛局移設整備課
2019年	地方協力局沖縄調整官付
2020年	大臣官房秘書課
2021年	整備計画局防衛計画課

省内での打合せにて

現在の職務内容

「バランスを保つために水を運ぶ選手が必要だ」

元サッカー日本代表監督のイビチャ・オシム氏は、献身的に守備を行い、攻撃の起点となる選手をこのように表現しましたが、今の仕事も同じような役割を求められていると感じます。

航空戦力の整備を担うチームの一員となってから約半年が経ちました。「防衛力を5年以内に抜本的に強化する」ため、将来のあるべき姿を考えながら、必要な政策を積み上げる。その過程において実際に装備を運用する自衛官との議論を通じて、戦闘機などの装備品の取得計画が検討されますが、現実には、限られた財源・時間・人的リソースといった制約が存在するため、最適解を模索する必要があります。しかし、厳しい現実に直面したからと言って安易に妥協することは許されません。

政策の裏付けとなるエビデンスの整理や論理構築など、攻守にわたりやるべきことは山積しています。政策立案のフォワードたる部員が「シュート」を決められるよう、今日も走り、ボールをつなぎます。

印象に残っているエピソード

わが国周辺空域における防空を強化する戦闘機体系の構築のため、防衛省・自衛隊は、F-35A戦闘機を取得しており、2013年度以降、機体やエンジンの最終組立・検査など、国内企業が製造に参画しています。

入手1年目の秋、国内企業による製造参画プロセスの一部を担当しました。他省庁との協議や防衛大臣名の文書発簡、幹部への報告など、役人の基本動作ではありますが、入省してからまだ半年、全てが初めての仕事でした。米国政府とも調整の上進められている事業でもあり、その重要性は誰の目にも明らかです。スケールの大きさに重圧を感じつつも、上司のフォローもあり、何とか役割を果たし、仕事をやり遂げました。その後、無事にF-35A戦闘機が配備された時に感じた達成感は忘れられません。

読者へのメッセージ

ー「安全保障」という国家存立の根幹を担うー

組織としてのミッションはシンプルです。これを見据えて、私たち防衛省の職員は様々な政策の実現に取り組んでいますが、本省内部部局採用であれば、入省してすぐ政策決定の過程に関わる機会が訪れます。

安全保障というフィールドで政策立案に従事したい。そして、日本の平和に貢献したい。そのような揺るぎない志を持つ皆さんにとって防衛省は最良の選択肢である、そう確信しています。

CROSS TALK ～本省内部部局採用の魅力～

職員A
2019年入省

職員B
2020年入省

職員C
2019年入省

沖縄県本土復帰50周年という記念すべき年に、南西地域の重要な拠点である「沖縄防衛局」で勤務する若手職員が「本省内部部局採用の魅力」について語ります。

職員G　皆様お集まりいただきありがとうございます。ではまず最初に、防衛省、特に本省内部部局採用への志望理由から教えてください。

職員C　2018年7月に発生した西日本豪雨がきっかけです。「晴れの国」と言われるほど天候に恵まれていた地元が、未曾有の大雨により甚大な被害を受け、延べ3万人もの自衛隊員が支援にあたる様子を見て、「最後の砦」としての防衛省・自衛隊の重要性を痛感すると共に、自分自身もその一翼を担いたいと思いました。

職員F　学生時代に安全保障や平和構築学を学んでいたということもありますが、海外で貧困のボランティアに参加したこともあって、平和というものを深く考えるようになりました。そして日本の安全は決して当たり前ではなく、能動的に守っていく必要があることを強く実感し、毎日のように流れている安全保障関連のニュースをただ漠然と見ているだけではなく、自身の仕事として、国防というものに携わってみたいなと思ったのが防衛省を目指したきっかけです。また、防衛省はもちろん他省庁や民間企業等の説明会にも足を運びましたが、防衛省、特に内部部局で勤務されている職員の皆さんの熱意に最も心を動かされ、この場所で自分も頑張ってみたいなと思ったのが内部部局採用を志望した理由です。

職員D　F君も言っていたように、「防衛省って志をそのまま語れる環境だなあ」と感じたことが大きな決め手でした。志なんて暑苦しいと思う方もいらっしゃるでしょうし、就活当時、「働いたらやりがいや志なんて考えていられなくなるよ、仕事は生活のためだよ」と忠告してくださる方もいらっしゃいました。考え方は人それぞれですし、否定するつもりは全くないのですが、あくまで私の場合は、仕事をする以上、たとえつらい瞬間が訪れても踏ん張ろうと思えるほどのやりがいや使命感を感じる仕事ができたら幸せだなと、ずっと思っていたんです。防衛省で出会う方々は臆せず志を語り、わくわくしながら仕事をしている雰囲気が伝わってきたので、この環境で働きたい！と思い志望しました。

職員G　今までの勤務の中で記憶に残っていることはありますか?

職員A　入省1年目の調査課戦略情報分析室では自分の担当業務を持ち、東欧の国際情勢と国防費の調査をしていました。北朝鮮のミサイルが多く発射された年だったので、総括業務と担当業務を担うことはかなりハードでしたが、一方で、自分が作成した資料や集めた情報が国の政策決定に活かされた時には大きなやりがいを感じました。1年目でも防衛政策の中枢に関わる仕事に携われたことがとても印象的でしたね。

職員F　入省2年目に配属された国際政策課は、米国を除く世界各国の防衛当局との防衛協力・交流の総合調整を担っている課であり、私は課の総括調整担当として、他課・他省庁との調整や課内業務の取りまとめを行っていました。課として大きな業務を成し遂げたものが、ニュースで取り上げられているとやりがいを感じましたし、歴史的瞬間を目の当たりにしているような業務に携われた時は、防衛省の仕事のスケールの大きさを改めて実感しました。

職員G　皆さんが現在経験している地方勤務についてはどのように感じていますか?

職員C　沖縄県は2022年で本土復帰50周年となりますが、日本の平和と安全のために、自衛隊、米軍基地について、現在も大きな負担をお願いしています。防衛本省で企画・立案される安全保障政策一つ一つには、紛れもなく、地元自治体や住民の方々の理解と協力が不可欠です。そういったことを肌で感じるために、各地方での勤務は大きな財産になると感じています。

職員G　入省してまだ数年ですが、幅広い経験を積まれてきたかと思います。実際に業務をする中で、どのようなところにやりがいや防衛省の社会的意義を感じますか?

職員B　防衛省の持つ特徴の一つとして、自衛隊という実働部隊を持っていることがあります。中央省庁の一員として政策面で国民生活をサポートしつつ、災害派遣等でダイレクトに地域住民の支えとなることができますし、国外に向けてもPKO等で世界の平和と安定に貢献できるところにやりがいを感じます。政策立案や他機関・他国との会談、協議のような行政・政治的なアプローチも大切ですが、加えて我々には具体的な実現手段があり、色々な面から問題に対処する選択肢を持っています。

職員G　今の自分に足りないと感じているものやそれを身につけるために取り組んでいることはありますか?

職員B　グローバル化が進展する中でわが国の平和と安全、独立を確保するためには諸外国との連携が欠かせません。沖縄では特に対米調整の機会が多いのですが、通訳業務に携わりながらも英語力がまだまだ足りないなと痛感しています。語彙力を身につける必要ももちろんありますが、伝え方や論理の組み立て方等、相手国の考え方の基礎となる文化的背景に寄り添えるような知見があればもっと調整がうまくいくのではないかと考えるようになりましたので、留学等の機会を通じて身につけたいです。先日、防衛研究所が主催する軍事史セミナーを受講しました。こうした機会を通して、わが国の歴史や文化を知る機会に加えて相手の国のことも知ることができたらもっといいんじゃないかなと思います。

職員A　歴史、特に軍事史を学びたいと思っています。私も軍事史セミナーを受講して、現在の世界情勢や法制度を考えるためには、歴史を知ることが大きな意味を持つと感じました。例えば、現存する法制度は、制定当時の情勢や考え方を踏まえて定められているわけですから、法制度一つ一つのバックグラウンドを理解することで、その法制度が現状にも適しているのか、改善すべきはどこなのかといった点が見えてくるのではないかと思います。今ある環境を漠然と受け入れるのではなく、激動する国際情勢を踏まえて、今の状況に対応できる体制を構築していくことが必要だと考えています。

職員G　では今後携わりたいと思っている業務はありますか?

職員D　地方防衛局では、大枠の方針を示すだけではなく、最適な結論を導き出して何らかの形で実現させなければいけないというプレッシャーを感じる場面が多々あります。調整相手である自治体等のご意見を聞くと、そこには様々な葛藤や譲れない事情、理由があるということを痛感します。それでも国際情勢等を踏まえてこうしなければならない、ここは譲れないというものがある中で、関係者全員にとって一番いい選択肢を導き出せる職員でありたいと思っています。そのためには、日々仕事で関わる全ての方々のご意見をしっかり聞いて、それをまず正しく理解し、着実に進めていくことが大切だと考えています。

今は上司等と相談して物事を決定していますが、ゆくゆくは年次が上がって、決定権が自分に委ねられる時が来ます。その時に素早く適切な判断ができる管理職でありたいです。特に安全保障を担う防衛省では、一つ一つの決断が重いものだと思うので、今は一つでも多くの視点を得て己の資にし、以てわが国の防衛に貢献したいと思っています。

私はこれまで、人事、国際、地元調整の部署を経験させていただきましたが、運用や法制度部署の経験がないので、知見を広めるためにも、今後はそういった仕事をぜひ経験したいです。

職員B　私は今まで政策分野の部署が多かったので、部隊運用に携わってみたいです。なので、本省内部部局というよりは統合幕僚監部でしょうか。もともと防衛交流等、諸外国との連携に関心があったのですが、沖縄で対米調整に参加させていただいて一層興味を抱いたので、自衛隊の海外派遣に関する業務にも就いてみたいです。

職員F　国際交流の側面だけを取り上げると内部部局にも様々な部署がありますよね。

職員B　F君が昨年度いた国際政策課もそうですよね。今のところ部隊運用に一番興味があるので統合幕僚監部しか取り上げませんでしたが、むしろ一つの課で業務が完結する部署はほとんどなく、どの課もそれぞれの分野で国際協力をしていますね。どの課も海外と交流があることも防衛省の魅力だと思います。

職員F　調整の場面では、お願いするだけではなく、絶対に譲れないもののために強く伝えなければならない時があると思うのですが、自分にはその「押し」が足りていないと感じています。国会対応等で「押し」の仕切り役となる調査係等を経験して自分を鍛えたいです。また、地方勤務で初めて予算に深く携わり、予算がないと政策は実行できないと感じることがあったので、予算を司っている会計課や防衛計画課も経験してみたいです。

職員A　機会があれば、また調査課戦略情報分析室で勤務したいですね。この部署が担う業務の一つとして、報道やインターネットにおいて散見される生の情報（インフォメーション）を分析し、政策決定の材料になる情報（インテリジェンス）を作っていく仕事があります。情報（インテリジェンス）は政策立案のために必要不可欠であり、防衛政策の根幹である業務として魅力を感じています。1年目の経験を活かしつつ、さらにスキルアップした自分で軍事的に大きな国などを担当したいです。

職員E　内閣官房国家安全保障局（NSS）に出向したいと思っています。まさに今、わが国の安全保障の転換期だと思うのですが、この転換期において安全保障の取りまとめ役を担っているのがNSSだと感じています。入省2年目の時にいた防衛政策課の調整先でもあったのですが、NSSは官邸からの指示がダイレクトにおりてくる現場であり、ものすごく臨場感のある職場だなと思いました。また、今所属している課では米軍機事故等の事案に対処することが多いのですが、第一報が来た時の瞬発力が足りないと思う場面が多々あります。官邸のお膝元とも言えるNSSでは毎日が瞬発力必須な日々かと思うので、ぜひ勤務して、その点を磨いていきたいです。

職員G　配属先の希望について、同じ内部部局採用の先輩に相談することも多いかと思いますが、職場にて先輩とのつながりを強く感じることはありますか。

職員C　内部部局採用は2014年に開始されたまだ歴史の浅い制度ですが、先輩方のご活躍もあり、国内外への留学、他省庁への出向、新規ポスト等、日々活躍の幅が広がっています。自分たちも後輩のために、責任を持って仕事をしていきたいと思っています。

職員E　内部部局採用の先輩には、もっともっと勉強していこう！という熱い人が多いと思うのですが、「この本は勉強になるよ」とおすすめの本を教えてくださったり、英語の勉強の仕方を助言くださったりなど、内部部局採用としての視点からのスキルアップを教えてくださるサポートにつながりを感じます。

職員G　では最後に学生の皆さんに向けてのメッセージをお願いします。

職員E　防衛省には「当たり前の日常を守り続ける」という使命に様々な形で正面から向き合い、日々模索している職員が大勢います。わが国の平和と独立を守り、国の安全を保つことに少しでも共鳴された受験生の方がいらっしゃったら、国防ということに構えすぎずに、防衛省の扉を叩いてくだされば嬉しいです。きっと、熱心な職員と、多種多様な、でも一貫して安全保障に通ずる業務が待っています。

職員F　まだ歴史の浅い一般職本省内部部局採用ですが、年々着実に活躍の場を広げていっています。防衛省が直面する政策課題が複雑化・多様化していく中で、我々の職責もより一層大きくなっていくと思います。熱い思いを持った皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしております。

職員G
2018年入省

職員D
2019年入省

職員E
2019年入省

職員F
2020年入省

キャリアアップシステム

国家一般職本省内部部局採用者は、入省2年目までに本省内部部局・防衛装備庁・統合幕僚監部において実務を経験した後、3・4年目は地方機関に勤務することで、本省の政策ニーズを地方に伝えると共に、地方機関への見識を深めます。
その後、再び本省で勤務をしつつ、海外留学や他省庁への出向などによって防衛省・自衛隊の外に視野を広げる機会を経ながら「係長」としての経験も積みます。さらに、多種多様な経験を経て、他省庁の課長補佐級に相当する「部員」に任命されます。
この部員制度は防衛省独自のスタッフ制度であり、自分の担当する政策分野において広範な責任と権限を与えられ、自らのイニシアティブで政策の企画・立案や実施を行うことが求められます。

係員級（本省）

防衛政策局調査課戦略情報分析室
総括班係員
2022年入省

私が所属している調査課戦略情報分析室は、日々目まぐるしく変わる国際情勢を幅広く分析する組織です。安全保障環境に関するホットトピックを扱う部署ですので、常に最新の情報をピックアップしながら、情勢の分析を行うと共に、その成果を省内外に発信しています。

現在、入省1年目職員として室内の意見の取りまとめを行ったり、他課との意見調整等を行ったりする窓口業務に従事しています。政策部局からの資料要求への対応や、国会や会見の答弁資料の作成に取り組む際、室内の業務が効率よく遂行されるように、サポートをするのも窓口の役割です。室内の各担当に、必要な情報をタイムリーに提供できるよう、室内の業務を網羅的に把握する必要があります。

先輩や上司にご指導をいただきながら、日々舞い込んでくる仕事のうち、どれを率先してこなすべきなのか優先順位を考えながら、自ら積極的に業務に取り組むように心がけています。

係員級（地方）

中国四国防衛局企画部地方調整課
基地対策室第3係員
2020年入省

地方防衛局は、防衛行政全般の地方における拠点として、「地元の理解及び協力の確保」、「防衛施設の建設工事」等、防衛政策を自衛隊と在日米軍の施設やその周辺地域において遂行していくために様々な業務を行う組織です。

私は現在、中国四国防衛局の基地対策室に勤務しており、新しい装備品の配備や訓練の実施等にご理解・ご協力が得られるよう、地元自治体との調整や地域住民の方々へのご説明などに関する業務を行っています。

地方防衛局での勤務は、本省では肌で感じることが難しい個々の現場の実情に臨場感を持って向き合うことができます。

我々防衛省・自衛隊の任務には、地元の方々からのご理解が不可欠です。日々、地元自治体の考え方、地域住民の方々からのご意見などを通して実際の現場について学んでいます。地方勤務におけるこうした経験を、今後の本省での勤務に活かしていけると確信し、試行錯誤を繰り返しながらも充実した日々を送っています。

係長級

防衛装備庁装備政策部国際装備課調整係長
2016年入省

わが国の平和を守るためには、防衛力の強化だけでなく、諸外国との協力を深化させることが不可欠です。その防衛協力の一環として、私が勤務する国際装備課は、装備品や技術といった分野での協力を担当しています。

このうち、日本の装備品の海外移転（輸出）に際しては、相手国の個別のニーズを聞き取りながら、自衛隊や防衛産業の状況を踏まえて、丁寧に案件を積み上げていく必要があります。私も一つの国を担当し、企業の方々や省内外の関係者と相談をしながら、日々相手国との調整を進めています。

装備移転の実現は簡単ではありませんが、多くの関係者の努力が成果として目に見える形で残ること、移転した装備品がその後何十年にもわたり使用され、相手国の人々の平和と安全を守っていくことにやりがいを感じています。

どんな業務でも人と人との信頼関係がベースにありますので、本音で話せる相手として信頼を得られるよう心がけて仕事に臨んでいます。

部員級

大臣官房広報課国際広報班長
2001年入省

広報課の仕事は、記者会見や、映画・テレビ番組への協力、イベントの開催、広報館の運営による情報発信を通じて、防衛に対する国内外の理解を深め、信頼・協力を得ることです。最近ではSNSの活用に力を入れており、「防衛省・自衛隊の活動の今！」を積極的に情報発信しています。

私は国際広報班長として、特に国際社会に向けた広報を担当しています。各国とのハイレベル交流や共同訓練などの活動について、諸外国の理解と支持を得るため、伝え方・見せ方を工夫しながら情報発信しています。この際、率先してアイデアを出し、省内外の関係者等と必要な調整を行うことが、担当部員としての私の仕事です。

私たち広報の仕事ぶりが、防衛省・自衛隊の任務の安定的な遂行に寄与するということを常に意識しながら、効果的な情報発信ができるよう、日々、反省と改善を繰り返しながら業務にあたっています。

先任部員級

人事教育局衛生官付先任部員
1996年入省

自衛隊の任務遂行には、隊員及び部隊の壮健性を維持していくことが必要であると共に、各種事態に対応する隊員の生命を最大限に守れるよう衛生機能を強化していくことが重要です。

人事教育局衛生官付では、隊員の健康管理のほか、各種事態における第一線から最終後送先までのシームレスな医療・後送態勢の強化を図るため、隊員の救急救命措置や、各医療拠点における資器材の整備、後送先となる自衛隊病院の管理・運営などに関する業務を所掌しています。

また、近年では新型コロナウイルス対策として、ワクチン接種を推進するための自衛隊大規模接種会場の運営に関する業務も所掌しています。

私は先任部員として、これら業務全般の国会・報道対応のほか、課員の人事管理等も担当しています。特に衛生機能の強化に関する業務は、隊員の生命に直結する重要な課題であり、それだけにやりがいも大きいです。隊員の救命率の向上を第一に考え、医官や事務官等が一体となって、様々な課題に取り組んでいます。

課長級

統合幕僚監部参事官
1993年入省

統合幕僚監部参事官は、国民生活を直撃するような災害が発生した際の自衛隊の救援活動や、わが国に対する武力攻撃が発生した際の国民保護に係る事務を所掌しています。

平素は各種災害対処計画の策定などに係る事務を担当しつつ、大規模災害が発生した際には、参事官付総員が一丸となって様々な調整や報告業務などを行います。

リーダーである私は、被災状況や政府対応に関する情報、部下職員からの報告を基に、対応方針を考え、速やかに次々と指示を出していくこととなります。

その指示の一つ一つが適切かつ的確な組織行動につながるよう、日頃から様々な関係情報を収集・分析し、事態を想定・シミュレートすることは欠かせません。また、組織が一丸となって速やかに機能発揮できるよう、常に部下職員の心と身体の健康に配意するといったことを心がけるようにしています。

時に人の命を救い、国民生活と深く関わる職務に携わる自覚と使命感に心震わせ、刻一刻と変わる状況下、生起する様々な課題や事象に最適解を求め、志を同じくする仲間と共に、強固なチームワークで事に臨む。これほどに達成感と充実感を感じるやりがいのある仕事はないと考えています。

職員のある一日

防衛装備庁装備政策部
装備政策課係員
2022年入省

TIMELINE

09：30 出勤後、メールの確認

出勤後はまずメールの確認をします。
急ぎで対応しなければならないものはないか、
業務の優先順位を考えながら1日の予定を立てます。

10：00 他課に資料提供依頼

とある新聞社から質問が来ていたので、
回答を作成するための資料集めを行います。
お願いするばかりではなく、他課から資料提供を
依頼されることも多いので、課の窓口同士とても仲がいいです♪

11：00 取材の回答作成

どんなことにもチャレンジ！ということで、
集めた資料を基に取材への回答を作成します。
途中で行き詰まってしまっても、上司や先輩が
適切なアドバイスをくださいます。

12：00 ランチタイム

待ちに待ったランチタイム♪防衛省周辺には
中華料理、韓国料理、エスニック料理…など
様々なお店があるので飽きることがありません。
同期や職場の先輩と一緒に楽しく食事しています。

13：00 会議準備＆会議出席

米国とのサプライチェーン等の協力に関する会議に出席。
事前に関係資料を読み込むなど準備もしっかり行います。
装備行政の最前線で日々、刺激の多い生活を送っています。

15：00 資料作成

上司から依頼された資料の作成を行います。
この日は諸外国の防衛産業についての
レポートの概要を作成しました。

15：30 上司と打合せ

課内で検討中の案件について上司と打合せ。
今後の方向性や、準備することについて
話し合いました。

16：30 議事録作成＆資料準備

先ほどの会議の議事録作成。
並行して、高官に説明を行う際の資料の
準備を行います。

18：30 退庁

明日もいい日になりますように！

窓口業務とは

若手職員を中心に他課とのやり取り、装備庁内の取りまとめを一元的に担う業務です。また、国会対応も業務のうちの一つです。私の所属する装備政策課は装備庁の「窓口」でもあるため、本省内部部局からの依頼を庁内の各課に展開する業務も行います。

意識していること

装備政策課は装備庁の司令塔であるため、自分の出した指示が装備庁全体に影響を及ぼすようなことが多々あります。その時に「どの立場の人でも理解できる」指示を出せるよう意識しています。また、お互いの立場を尊重できるような調整を心がけています。

休暇の過ごし方

防衛省は最低でも月に1回は有給休暇を取得することを推奨しています。私は有給を月曜日や金曜日に取得して、作成した3連休で旅行に行くことが多いです。また、職場の同期と女子会を開いて交友を深めています♪

ワークライフバランス

防衛政策局国際政策課防衛協力制度企画室調整係長
2014年入省

プロフィール	
2014年	経理装備局装備政策課
2015年	人事教育局衛生官付
2016年	南関東防衛局企画部防音対策課
2017年	南関東防衛局企画部 地方調整課地方協力確保室
2018年	大臣官房秘書課
2020年	防衛装備庁プロジェクト管理部 事業監理官（航空機担当）付
2021年	産休・育休
2022年	大臣官房秘書課 防衛政策局国際政策課

一日のタイムスケジュール	
05:30	起床、子供の身支度
07:30	出勤（子供は夫が保育園へ）
08:30	登庁
10:00	Skype会議
13:00	資料作成
16:15	退庁（1時間時短）
17:15	保育園お迎え
17:30	夕食・遊び
19:30	入浴
20:30	寝かしつけ

取得した休暇等の制度

産前産後の特別休暇、育児休業、保育時間確保のための特別休暇、育児時間、テレワーク

仕事もプライベートも全力で

現在の職務内容

2022年で入省9年目になりますが、これまで装備行政や職員の採用など様々な部署を経験し、現在は国際政策課という部署で働いています。国際政策と聞くと防衛相会談のような華やかな仕事を思い浮かべる方も多いかと思いますが、私が所属している室では他国との防衛協力を促進するための法整備といった、実際の防衛協力の円滑化のためになくてはならない基盤の構築等を行っています。保育園の送迎のため勤務時間を1時間短くしているので、短時間で集中して仕事に取り組むように意識しています。

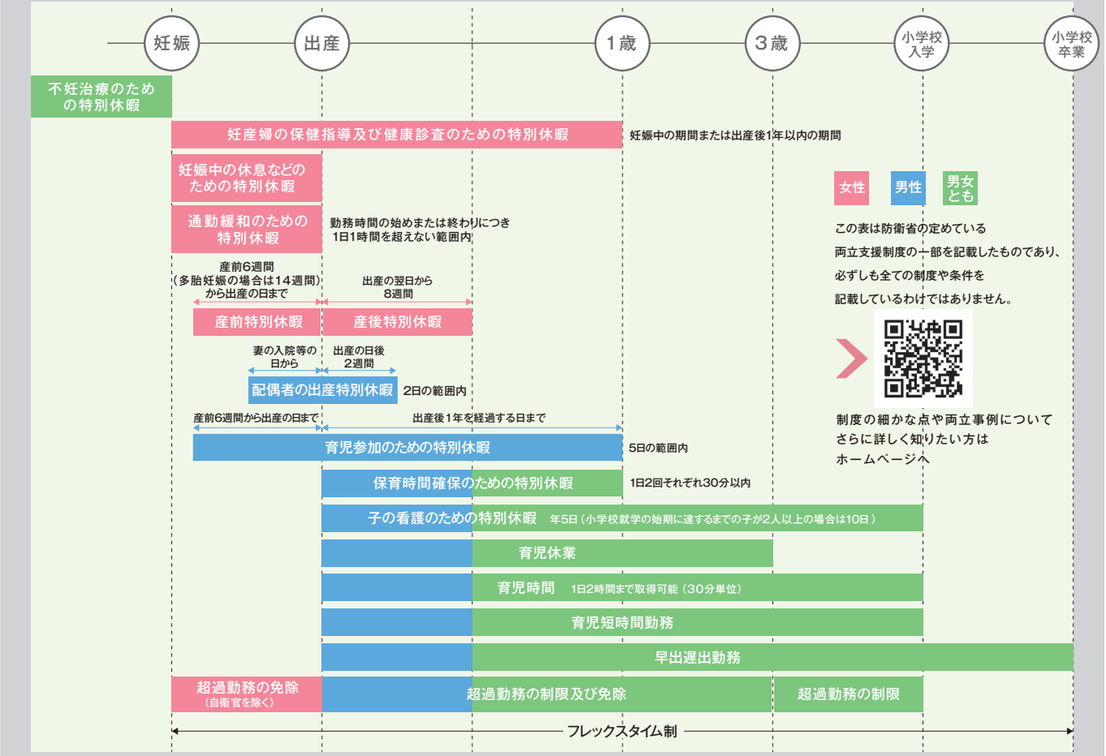
育児休暇中に感じたこと

出産予定日の6週間前から産休、その後約1年間の育休を取得しました。休暇中は仕事から離れて児童館や公園で遊ぶなど、子供と思いっきり向き合うことができました！ いざ育児休業を終えて復帰する頃には、「1年間のブランクがあるけれど仕事に戻ることができるだろうか」などと悩みましたが、今考えると杞憂でした。職場には育児との両立に理解のある人も多く、職場の皆さんの助けも借りながら目の前の仕事にまい進する日々です！

育児と仕事の両立を考えている志望者へのメッセージ

結婚して、子供ができて、とライフスタイルが変わっていっても、やりがいを持って働き続けられる職場なのかということは、学生の皆様の視点からはなかなか見えにくいかもしれませんが、とても重要なことです。育児と仕事の両立は確かに大変なこともありますが、防衛省には勤務時間や休暇等に係る各種両立支援制度がしっかりと整備されており、私も子供が体調不良の際はテレワークを活用して仕事をしています。仕事もプライベートも充実できる防衛省で皆さんも一緒に働きませんか？

出産・育児に関する両立支援制度



採用情報

採用実績

（人）

試験	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
国家一般職 大卒程度	12(7)	13(7)	8(5)	11(6)	11(6)

※1　採用実績欄の（　）は女性の人数を示します。
※2　2023年は採用見込み

Q&A

Q　国家公務員採用一般職試験の席次、大学や学部学科の違いによる採用への影響はありますか？

A　人物本位の採用を行っており、それらの違いによる採用上の有利･不利はありません。

Q　防衛省を志望する上で、必要となる知識や資格はありますか？

A　防衛省を志望するにあたり、習得しておくべき知識や資格は特にありません。
安全保障や防衛政策に関する専門的な知識については、業務を経験していく中で身につけていくことになります。

Q　本省内部部局で採用された一般職職員の業務内容を教えてください。

A　総合職職員と共に、主に政策の企画･立案に従事します。
将来的には、防衛政策のスペシャリストとして、政策を実現するため中心的な役割を果たすことが期待されます。

Q　本省内部部局以外でも防衛省で採用されるチャンスはありますか？

A　本省所在機関、陸海空自衛隊、地方防衛局、防衛装備庁などの機関で、一般職試験（大卒程度）の合格者から採用を行っています。官庁訪問では、本省内部部局と併願することができます。

Q　異動のサイクルはどのくらいですか？

A　約2年～3年のサイクルで異動があります。
市ヶ谷での勤務が多いですが、地方勤務や海外留学、他省庁への出向などの機会もあります。

Q　説明会や官庁訪問の情報について教えてください。

A　防衛省では、業務の魅力を発信するため、説明会やワークショップなどを開催しています。
開催日程等は、防衛省の採用ホームページでお知らせしています。興味のある方は、ぜひアクセスしてください。

採用担当者からのメッセージ

現在の安全保障環境は、国家間の激しい競争や既存の秩序に対する挑戦への対応、
テクノロジーの進化に伴う軍事技術の進展等により不確実性が増しています。
このパンフレットを手に取っている皆さんの中には、こうした状況に不安や危機感を覚えている方も
少なくないのではないでしょうか？

防衛省内部部局には、政策文書の策定、国際協力業務、防衛力整備、地元の協力確保、装備品取得、
自衛隊の運用、国際情勢の情報収集・分析等の多種多様な職務が存在します。
日本を取り巻く安全保障環境が厳しさを増し、防衛省の政策課題が複雑化・多様化していく中で、
国家一般職本省内部部局採用職員は安全保障関連行政の担い手として、
多岐にわたる分野で活躍の幅を広げてきました。

本省において政策立案に従事する国家一般職本省内部部局採用の職員に
求められる職責はますます大きくなっています。業務に従事する中で自分の専門性を磨き、
自らの成長も実感しながら、わが国の安全保障に貢献できることでしょう。

就職活動中の皆さん、
安全保障分野に関心がある方は、説明会等の機会を見つけて、ぜひ、職員と直接話をしてみてください。
そして、仕事内容ややりがい、職員の人柄、職場の雰囲気等、納得が行くまで情報収集してみてください。
その先に防衛省という選択肢があれば嬉しく思います。

安全保障という国家存立の根幹を担う最後の砦、
国民の生命と平和な暮らしを守り抜き、国際社会の平和と安定に貢献するため、
防衛省・自衛隊、約25万人の隊員一人一人が同じ使命を担っています。

安全保障という広大なフィールドで新たな課題に挑戦したい。
日本の平和と安全のため、何事にも前向きに取り組んでいく。
「当たり前の平和を守り続ける」という一つの目標の下、同じ想いを持った仲間がここにはいます。

皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

防衛省大臣官房秘書課
国家一般職本省内部部局採用担当